

鳥取県水産試験場からのお知らせ

マアジ加入量調査結果速報

鳥取県水産試験場では日本海区水産研究所、西海区水産研究所および島根県水産技術センターと共同で、マアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたのでお知らせします。本調査結果はホームページにも掲載しております。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1037681/maaji2016.pdf>

結果の概要

- 2016年は調査水域全体に万遍なく分布していました。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ幼魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、2003年を1.00とすると2.20となり、前年を大きく上回りました。
- 今年のマアジ0歳魚の漁獲量は前年を上回ることが見込まれます。

マアジ幼魚の採集結果と分布状況

2015年5月下旬から6月中旬にかけて図1に示す鳥取県西部から長崎県男女群島周辺の海域における104定点において、中層トロール網を用いてマアジ幼魚（2016年生まれ）を対象とした漁獲調査を実施しました。その結果、尾叉長4～6cmサイズを主体に、合計40,839尾のマアジ幼魚が採集されました。

今年マアジ幼魚の適水温と考えられる16～18℃（水深50m）の水温帯が鳥取県から対馬海峡までの大陸棚上に広がっていました。マアジ幼魚の分布状況（図1）を見ると、採集されたマアジ幼魚の多くは、この水温帯とそれより高い18～20℃の水温帯に分布していました。

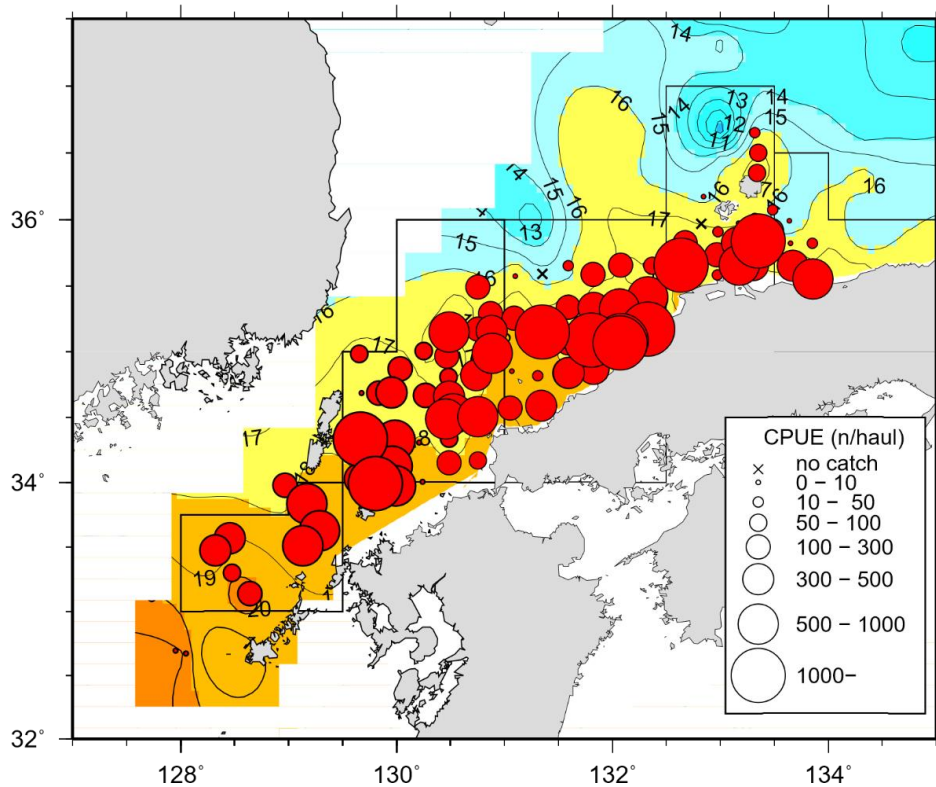


図 1 2016 年のトロール網調査結果 円の大きさはマアジの採集量の多さを表し、×は採集されなかった点を表す。実線の等温線は水深 50m の水温分布を表す。

マアジ幼魚の加入量と今後の漁況

マアジ幼魚の分布量に水深 50m の水温分布を勘案して求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さを表します）は、2003 年を 1.00 とすると、今年は 2.20 となり、前年を大きく上回りました（図 2）。このため、2016 年の秋期に向けて 0 歳魚の加入量は前年を大きく上回ることが予測されます。この加入量指数は、その年の 6 月から 12 月の間に境港にまき網によって水揚げされるマアジ 0 歳魚の漁獲尾数（まき網 1 ヶ統あたり）とある程度対応がみられることから、本年の山陰沖におけるマアジ 0 歳魚の漁獲量は、昨年を上回るものと見込まれます。

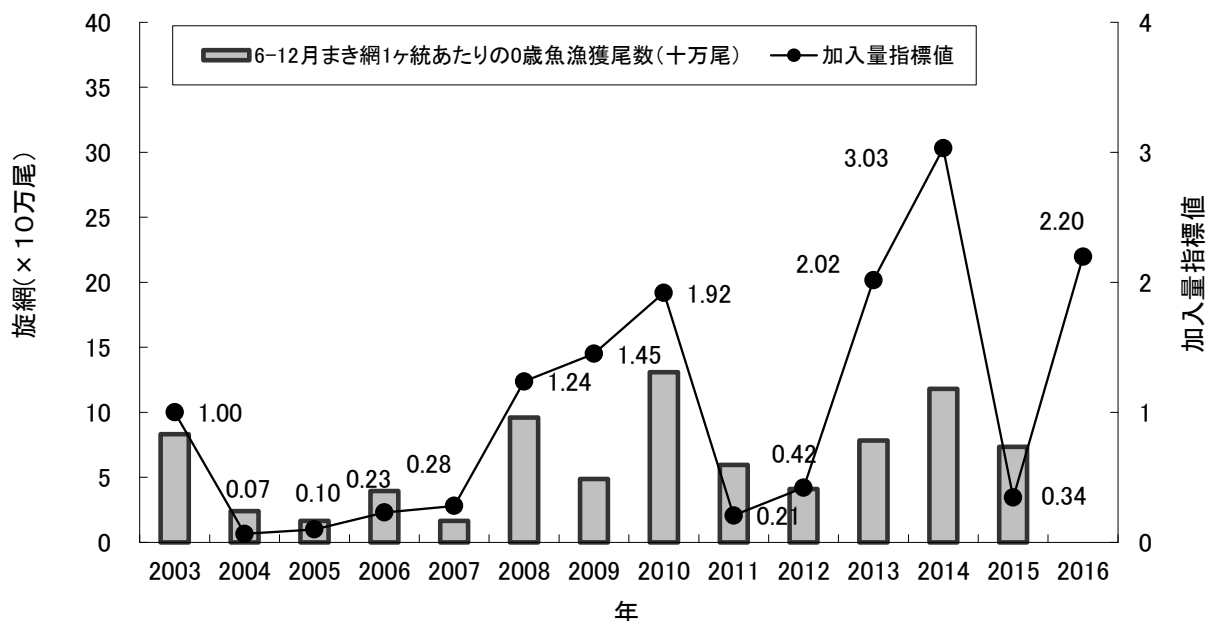


図2 新規加入量調査から求めた加入量指標値と境港におけるまき網1ヶ統あたりの0歳魚漁獲尾数(6~12月に水揚げされたマアジ0歳魚の尾数を水揚げしたまき網の数で割った値)の年変化

マアジの資源について

夏季には他の浮魚類の漁獲が減少するため、マアジ0歳魚が集中的に漁獲されることが多いです。しかし、小型魚を取りすぎてしまうと翌年以降の産卵親魚の減少等によりマアジ資源が減少する恐れがあるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが大切です。平成24年度以降は新たに策定された「資源管理指針・計画」のもと、まき網漁業者を主体に小型魚を漁獲状況に応じて獲り控える取り組みが実施されています。こうした取り組みを実施することで、マアジ資源の持続的な利用につながることを期待しています。

担当 田中
TEL 0859-45-4500